

ピケティとアベノミクスのトリクルダウン

今、開催中の国会で、安倍首相と民主党が格差について議論しています。国会も流行に敏感でなければならない、政治家もピケティぐらい読んでおかなければならないということでしょう。

こちらは、未だ読んでいませんが、週間東洋経済を読む限り、ピケティの説は別に目新しい事でもなく、繰り返し議論された当たり前のことのように思えます。特に中国の易姓革命の歴史に代表されるように、貧富の差が拡大したところに、天災や飢饉があれば革命(乱)が起きるということです。ピケティは革命とか乱が起きる前に税制改革で何とかしなければならないと言っているに過ぎないと考えています。何故、この本が世界的なベストセラーになるのか理解できません。恐らく、世界的に株価が上昇する中、一段と格差が拡大し、格差の許容限界に近づいていると考えた方が良くと思います。

最近の安倍首相は、「アベノミクスはトリクルダウンではない」「賃上げも伴う、ボトムアップ」だと仰っているようですが、1年ぐらい前には、景気回復には輸出回復、株価上昇、大企業の収益回復、賃金上昇というような順番があると言っていたように記憶しています。

アベノミクスをシャンパンタワーで説明するテレビの解説者もいましたが、一番下の階層のグラスが満たされるまでは時間が掛かりそうだし、満たされるのに十分なシャンパンがあるのか気になるところです。上の階層のグラスが大きくなると心配になります。大きくなりすぎれば、安定が悪くなり、倒れるのではないかと心配にもなります。

資本家が労働者よりも取り分が多いのは、資本主義である以上致し方ないと考えていますが、程度問題です。進学する大学が、親の収入で決まるような時代、収入が少なくて結婚できない、子供を産めない社会には、ピケティが言うように累進課税の強化が必要と思えます。

ピケティの「21世紀の資本論」要約の要約

各種の書評等を要約すれば、以下の様になります。

$$\text{資本収益率 (r)} > \text{経済成長率 (g)}$$

「一般的に資本収益率 (r) は経済成長率 (g) よりも高いのが常である。

これが長年続けば、富が資本家に集中、蓄積されることになる。富が公平に分配されないから、社会や経済が不安定化する。この格差を是正するために、累進課税、それも世界的に導入することが必要だ」という提案がこの本の主題の様です。

アベノミクスのトリクルダウン

『トリクルダウン(trickle down)』という表現は『徐々にあふれ落ちる』という意味で、大企業や富裕層の支援政策を行うことが経済活動を活性化させることになり、富が低所得層に向かって徐々に流れ落ち、国民全体の利益となるとする仮説である」とウィキペディアにありました。